

病理診断科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	前立腺癌病理診断の国際標準化及び前立腺癌診断に対する人工知能の開発
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 道勇学
担当科等	病理診断学講座
研究責任者	(職名)教授 (氏名)都築豊徳
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	スウェーデン、カロリンスカ大学 (多施設共同研究機関) Lars Egevad 教授、Martin Eklund 教授
研究の意義・目的	人工知能を導入することにより、医療における診断能の向上が期待されています。2012年から2015年にかけて、スウェーデン、ストックホルム及びその近郊の男性を対象にして、前立腺癌検出目的でPSA検診及びその結果を基に前立腺針生検を行い、PSA検診の有用性及び前立腺針生検の予後予測能を検証する大規模臨床試験STHLM3が行われました。本試験では59,159名の針生検が行われ、採取された全ての前立腺の組織に対して人工知能により前立腺癌の診断が行われ、同時に解析モデルが作成されました。しかしながら、他の施設でもこのモデルが有用であることを証明した検証が行われていません。このモデルを用いて、日本人を含む、複数の人種での有用性の検証を行います。
対象となる患者さん	2015年7月1日から2027年12月31日までに前立腺針生検にて前立腺癌と診断された患者さん
研究の方法	スウェーデン政府が行っている前立腺癌撲滅プロジェクト Stockholm-3 (STHLM3)試験において、生検された病死組織が全て whole slide image (WSI)化されています。その WSI 中の代表的な症例を選出し、多国籍の病理医間での診断一致性を検討します。その結果をもとに新しい基準を作成します。その有用性の検討には STHLM3 試験以外の前立腺針生検標本が必要であり、必要に応じてそれぞれの国からの代表的な症例を提供し、有用性の検討に使用する予定です。
研究期間	倫理審査承認日 ~ 2028年1月31日
研究に用いる試料・情報	試料：病理診断に用いられた病理標本を使用します。 情報：標本をデジタルデータ化し、カロリンスカ大学に転送します。

外部への試料・情報の提供	WSI化(デジタル化)した病理標本情報をカロリンスカ大学に提供します。
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。ただし、すでに解析等を終了して対応できない場合があります。
問い合わせ先	愛知医科大学 医学部 病理診断学講座 担当者:(職名)教授 (氏名)都築豊徳 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311(内線 37410)